

THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

Serve to Change Lives



地域から行動で新しい変化を

RI 会長 シェカール・メータ

2021～2022

富津中央RC会長 神子 勝美

国際ロータリー 第2790地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

No.2678 第31回例会 2022. 6. 16 曇

点 鐘:神子勝美 会長

進 行:SAA 白石幸久 副 SAA

ソング:それこそロータリー

会長挨拶

神子勝美 会長



ご安全に！！2021－2022年度残り僅かとなりました。1年間何とか会長を務められたことは、会員皆様方のおかげだと思っています。サンキュウありがとう、感謝の気持ちでいっぱいです。

本日は、星野会員よりストレートな会計報告があり、志波会員、三枝会員、高橋会員の卓話がありますので楽しみにしています。心にゆとりがあると心も元気で、健康のためには心のゆとりが何よりも大切です。貝原益軒は「養生訓」で4つの楽しみを進めている。「自然を楽しむ」「読書を楽しむ」「人と共に楽しむ」「旅を楽しむ」どれも今すぐに、やれることばかりです。「自然を楽しむ」窓から見える庭や並木道の緑にほっと心を和ませる。また雲を眺め、夜は月や星を見て楽しむ。「読書を楽しむ」気分転換に読む本については、ビジネス書ではなく、恋愛小説と

か歴史に関係する物とかが良いのではないのでしょうか。「人と共に楽しむ」気のおけない家族や友達とのおしゃべり、「きのうも阪神が負けたな」とか「岸田総理が話は聞くが何もしてくれない」とか、他愛のない会話が心を揉みほぐし解放してくれます。「旅を楽しむ」オーストラリア旅行でも楽しめればよいのですが、なかなかむつかしいと思うので、朝早起きしておいしい空気を吸いながら田んぼを見ながら歩き、旅行気分を味わうのも良いと思います。

幹事報告

岡田良弘 幹事

1. ハイライトよねやまV o l. 2 6 7回覧
2. 米山記念奨学会より5月の寄付金傾向回覧
3. 風の便りv o l. 7 (通刊93号) 回覧
4. 5月25日合同例会の清算書回覧

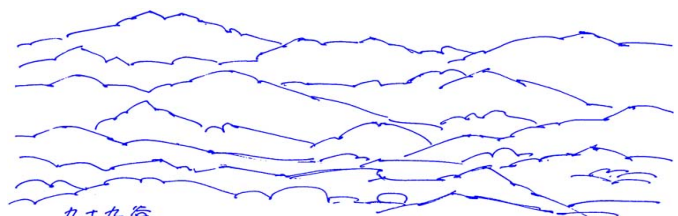
卓話

『決議23－34』雑感

志波 克 会員



〒293-0043 富津市岩瀬 841-3
いち川旅館
Ichikawa ryokan
841-3 Iwase Futsu-shi Chiba-ken,
293-0043
Tel. 0439-65-0177 Fax. 0439-65-0178
URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>



先週の例会後に岡田幹事から次の例会で、なにかロータリーのことを10分ほど話すようにと言われました。最近が高齢を理由に怠けており、現在のロータリーの動きは殆どわかりません。そこで、新しい会員も多いので、これまで何度かお話ししたクラシックな話題の、決議23-34について話すことにしました。古い会員も、ロータリーの友情を持って、又かと思わず聞いて下さい。

1905年にロータリーが発足してから会員数やクラブ数が急速に増大し、それに伴って様々な社会奉仕活動が行われるようになりました。活動が活発になると、そこに何らかの活動基準が必要になり、出来上がったのが「社会奉仕に関する1923年の声明」、いわゆる決議23-34です。

以降、ロータリー活動の基本方針として、何度か字句の修正が行われながら、一度はRIの方針に合わないと手続要覧から消えかきながらも「社会奉仕に関する1992年の声明」と併記され、現在に至っています。23-34の内容で、面白いと思ったところを2, 3話します。

会員にとってロータリーとは何か。

人間は、利己的な欲求と、他人のために奉仕したいという感情を持つが、そこには常に矛盾が存在する。その矛盾を和らげるのがロータリーである。

従ってロータリーは、基本的には、一つの人生哲学である。そしてこの哲学は「超我の奉仕」で表される奉仕の哲学であり、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践倫理の原理に基づいている。

社会奉仕活動の選択指針

クラブの一体事業よりも、広くすべての会員の個々の努力を動員する事業の方がロータリー精神に合っている。なぜならロータリークラブの社会奉仕活動は、単にクラブ会員に奉仕の訓練をするために企画された研究室の実験、とみなされるべきものだからである。このほか具体的な活動基準などが書かれていて参考になりますので、ぜひ最新の手続要覧を入手して「社会奉仕に関する1923年の声明」を読んでみて下さい。

ご清聴ありがとうございました。

『人生と生活』 ～遠藤周作の「深い河」を読んで

三枝一雄 会員



はじめに、皆さんこんにちは。私は昭和51年7月1日に当時ジュピターコーポレーション社長の藤村義朗先生の紹介で当クラブに入会しました。現在89歳で、チャーターメンバーで最長老の志波会員に次いで、古株になってしまいました。今回はロータリアンとして長年の経験から若い者に有益な話をするようにと言われました。これを真に受けて真面目な話をするのはとてもできませんので、最近読んだ遠藤周作の作品「深い河」から、人生と生活について紹介したいと思います。結論を先に言えば、ロータリーは人生であり、日常の仕事は生活ではないかと思いました。ロータリーでは「入りて学び、出でて奉仕を」と教えられました。ロータリーでは共に人生を学び、楽しみ、そして心を癒し合い、社会生活ではまね事でもいいから奉仕の実践をする。つまり生活の質の向上を図ることにより、全体として、幸福な人生をおくれるのではないかということです。

「深い河」とは、本当の愛にいきることの意味を問う遠藤文学の集大成であり、第35回の毎日芸術賞受賞作品であると表紙の帯に書いてあります。この作品の中には、何人かの人物が登場しますが、皆がそれぞれ何かを探すために日本からインドのガンジス河まで旅に出かける物語です。その中の一人、磯部という人物の場合を取り上げたいと思います。

磯部は、一流大学を出てワシントンに駐在

経験のある戦後を支えた典型的なサラリーマンです。定年間近、退職したばかりでしょうか。これからスペイン・ポルトガル旅行を楽しみにしていた35年連れ添った妻を癌で失います。

競馬やマージャンの趣味の無い彼の数少ない楽しみは、酒を飲むことと下手な俳句を作ることと暮を打つことだった。しかし彼は自分の俳句を妻に見せたことは無かった。彼は自分の感情を生に言葉や顔に出すことを恥ずかしく思う男だったし、何も言わなくても妻がこちらを察してくれる関係を望む夫だった。昭和ヒトケタ生れの典型的な男ですね。俳句は本当に下手だから省略します。主治医に末期だと告げられて下手なうそをつきます。うそをつくときは男は優しいものです。

彼女は微笑した。こんな優しい言葉をこれまでの夫から聞いたことが無かったからだ。妻特有の微笑。結婚当初、人間関係にくたびれて会社から戻った磯部が玄関をあけると彼女はこの包み込むような微笑を浮かべ、彼をむかえたものだ。—いい女房ですね—（中略）—今までこの女を粗略に扱ってきたうしろめたさを匿すため磯部はさらに嘘を重ねた。こうした夫婦関係の描写の後に妻の最後をむかえます。

- 「俺だ、俺。わかるか」

磯部は妻の口に耳を近づけた。行き絶え絶えの聲が必死に、途切れ途切れに何か云っている。「わたくし・・・必ず・・・生まれ変わるから、この世界のどこかに。探して・・・私を見つけて・・・約束よ、約束よ」

約束よ、約束よという最後の声だけは妻の必死の願望を込めたのか、ほかの言葉より強かった。磯部は妻が死んだことを受け入れられません。実感がわからない。磯部は多くの日本人と同様に無宗教です、死ねばすべてが灰になって消滅すると思っています。だから墓参りをして水を取り替えることがせめて妻の願いにこたえることでした。ところがある事が

きっかけで、「生まれ変わり」がいると聞いてインドの仏跡訪問ツアーに参加します。そして占い師に聞いてガンジス河のほたりを探します。もちろん会えるはずありません。酒を飲まずにはいられず、あたりを逍遙します。—今の彼にはこの世の中で妻への思い出だけがもっとも価値あるものに思えた。そして失ってみて初めて妻の価値、妻の意味が分かった気がしたのだ。男として仕事や業績がすべてだと思って生きてきたが、それがすべてではなかった。彼は自分がどれほどのエゴイストだったかに気づき、妻に対する後ろめたさを強く感じた—

夜です。眼の前には大きな河が横たわっており、遠藤は月光が銀箔のように川面に反射していると表現しました。すべてに無関心のまま河は流れていきます。

—「お前」と彼は呼びかけた。

「どこへ行ったのだ」—

今まで妻が生きていた時に、これほど生々しい気持ちで妻を呼んだことはありません。妻が死ぬまで彼は、当時の多くの男たちと同じ様に、仕事に熱中し、家庭を無視することが多かったのです、決して愛情が無いわけではありません。人生というものはまず仕事であり、一生懸命に働くことであり、そういう夫を女もまた悦ぶと考えてきたのです。そして妻の自分に対する愛情など、一度も考えずに暮らしてきました。ですが、臨終のときの妻のうわことを聞いてから、磯部は人間にとってかけがえのない結びつきが何であったかを知ったのです。

—独りぼっちになった今、磯部は生活と人生とが根本的に違う事がやっとわかってきた。

ここが大事なところですよ。そして自分の生活のために交わった葉人は多かったが、人生の中で、本当にふれ合った人間はたった二人、母親と妻しかいなかったことを認めざるを得なかった。

「お前」と再び河に呼び掛けた。「どこへ

行った」河は彼の叫びを受け止めたまま黙々と流れていく。だがその銀色の沈黙には、ある力があつた。河は今日まであまたの人間の死を包みながら、それを次の世に運んだように川原の岩に腰かけた男の人生の声も運んで行った。ー

この章は、磯部の場合はここで終わっています。しかし、磯部の旅は徒労ではなかったと思います。人生に気付いた彼の心の中に、妻は転生したのです。

むすび、作者の遠藤周作は、「生活」はいわゆる社会生活で、「人生」とは一人「大きな、永遠のいのち」とつながる道だと考えています。人との出会いも様々で、生活の次元であれば、人生の次元でもあると思います。生活でいっぱいになるとつい人生を忘れそうになります。磯部は母と妻だけが人生の伴走者だったというけれど、ロータリーの友は人生の友だと思いました。人の生活は様々で職業・年齢、また地位も財産も境遇もそれぞれ違いますが、ここでは「四つのテスト」にあるように、真実・公平・好意と友情・お互いみんなの為になるいとなみがあるところです。ロータリーは人生の友を得て悦び、語らい、癒され、そして自然と何か生活とは別な安らぎのあるところだと思いました。ご清聴ありがとうございました。

『オーストラリア報告』

高橋裕之 会員

今年のGWにオーストラリアに行ってきました。パスポートの期限が切れおり、他にも3回のワクチン接種証明、マイナンバーカード登録、Australia DPD、Australia ETA、MySOSの3種類のアプリ登録が必要でした。

旅行は、4月28日(木)～5月4日(水)の間でしたが、シドニーのコンドミニウムに滞在し、2日目にレンタカーで、ジャービス・ベイ～キャンベラを廻りました。野生のカンガルーに遭遇したりキャンベラの整然とした綺麗な街並みを観光しました。殆どがトラム

を利用したのショートトリップで、朝昼兼用の食事→市内散策→シドニー湾を横断して動物園見学→夕食前のパブ→ディナーといった、怠惰な日々の繰り返しでした。

円安で、物価の高さには驚きましたが、(バイトでも時給2000円以上)、英連邦の一員なので、パブはたくさんあり雰囲気も良かったです。今回は、バイクで廻ろうと計画をしていますので、ご一緒出来る方は、是非お願いいたします。

会計報告

星野 誠 会計

2021～2022年度の収支決算書報告がありました。

ニコニコボックス

飯島由美 親睦担当部員

榎本守男 哲ちゃん栗原さん佐々木さんにはゴルフでご迷惑をおかけしました。クラブを変えたのは失敗でした。

栗原典子 月曜日にRCメンバー4名とゴルフに行きました。神子会員の代打でしたが務まらず申し訳ありません。

小野・神子 恒・相川・飯島・朝月・若鍋 志波・三枝・高橋会員卓話ありがとうございました

平野安照 19日の移動例会に妻も参加させていただき、ありがとうございました。

志波 克 卓話をさせていただきました。

高橋裕之 旅行の話を聞いていただきました。

三枝一雄 卓話をさせていただきました。

梅雨ごもり して読書して 卓話して

かずを

出席報告

若鍋 武良 出席担当部員

区分	会員数	出席	欠席	MUp	出席率
今回	33/32	13	8		77.50%
前回	33/32	12	10		70.97%
前々回	33/26	17	9	4	86.66%